平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	65	都道府県・指定都市名	北九州市
学校名（ふりがな：きたきゅうしゅうしりつおりおにしょうがっこう） （児童数）	北九州市立折尾西小学校 （５８１人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：福岡県北九州市八幡西区折尾１５－１
電話番号：０９３－６０２－２６３１
研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：：http://www.kita9.ed.jp/orionishi-e/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：国語科
○研究のキーワード：自分の考え、適切に書く、目的に応じて読む、効果的な関連、文種
○研究成果のポイント：
「読むこと」と「書くこと」との有効な関連を図ることで、自分の考えを深めて書く力や読む力を高めることができた。副次的な成果として、時数の削減も図れた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

自分の考えを深め、適切に表現する力を育てる国語科学習指導 ～「読むこと」との効果的な関連を通して～

（２）研究主題設定の理由

思考力・判断力・表現力の育成を図るために，国語科のみならず各教科等で記録・要約・説明・論述といった言語活動の充実が求められている。国語科では，自分の考えを深めて理解したことをもとに,主体的に表現する力を育成することが重要な課題である。本校では，「書くこと」の継続的な研究の成果で，書く力の定着を図ってきた。しかしながら，児童の考えを深める指導については，各領域との有効な関連の中で行われることで，さらに確実な力として定着する。このような方向性で本主題を設定した。

（３）研究体制

「読むこと」との効果的な関連については，幅広い「読むこと」ととらえて行うこととする。そこで，前年までの「書くこと」の研究を踏まえ発展させる以下の分類で実践研究を進めることとする。

・Ａ群；「書くこと」の基本単元
・Ｂ群；「書くこと」「読むこと」の複合単元
・Ｃ群；「読むこと」の基本単元に既習の書く力を生かす単元（以下，活用型単元と記す）

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	５月	主題推進・主題研修（研究構想について）
	６月	研究授業・協議会（提案授業６年）・実態調査
	7～８月	実態調査分析・学習指導案作成
	9～10 月	研究授業・協議会（１・３年）講師：文部科学省　水戸部修治　先生 福岡教育大学　河野　智文　先生
	10～11 月	研究授業・協議会（２・４・５年）
	11 月 28 日	本校研究会（公開授業・講話）講師：文部科学省　水戸部修治　先生
	12 月	実態調査・分析
	1～２月	研究のまとめ

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

① 児童の生活や他教科等及び「読むこと」の領域との有効な関連を考えた年間指導計画の作成

児童の生活・他教科等の学習，及び「読むこと」の学習との効果的な関連を見渡し，他教科等の学習や実生活で活用できる,無理や無駄のない年間指導計画の作成を目指す。

② 目的に応じて読み，書くことに生かす関連的な単元構成の工夫

単元で取り上げる言語活動（文種）の特質を明確にし，指導の重点化を図って，適切に表現する力を育てるために，目的に応じて多様な読み物を効果的に読み，文種の特質をとらえて書く内容等に応じて書くことができるような単元構成の工夫をする。

③ 児童が自分の考えをもち相互に考えを深めて，適切に書くための手だての工夫（以下の４つの手だてを取る。）

（ア） 書く目的・相手・価値などを意識付けた単元設定の工夫

（イ） 文種に応じて効果的に読み，書くことに生かすための手だての工夫

（ウ） 重点化した指導内容に応じて，自分の考えを深めて読み，適切に書くための手だての工夫

（エ） お互いのよさ，よりよい表現を認め合い，次の意欲へつなげる交流活動の設定

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

① 児童の生活や他教科等及び「読むこと」の領域との有効な関連を考えた年間指導計画の作成

・身に付けた書く力が「読むこと」や他教科等の学習活動に生かされ，書いた作品の質の向上が図れた。読む力の向上も見られた。

・身に付けた力を活用するという指導者側の見通しがさらに適切なものとなった。

② 目的に応じて読み，書くことに生かす関連的な単元構成の工夫

・「児童が目的に応じて読み，書く」学習が展開するように単元構成の工夫をすることで，児童の主体的な学びを実現し，学習意欲の継続及び，指導者の個に応じた支援等が可能になった。

③ 児童が自分の考えをもち相互に考えを深めて，適切に書くための手だての工夫

・児童が見通しや目的をもって活動し，書く力や読む力の確実な定着を図ることができた。

（２）研究成果の意義等

研究の課題として残ったのは，以下の２点である。

・「書くこと」と「読むこと」が有効に関連を図れていない場合に，児童の明確な目的意識や見通しをもたせることができなかった場合があった。

・上記のような場合に，いたずらに時数が増え，児童の主体的な学びが実現しないこともあった。

単元を貫く言語活動を設定する場合に，指導者が十分に吟味して適切な言語活動（書く活動）を位置づけない場合は，いたずらに時数が増え，児童の主体的な学びも望めない。さらには，思考力・判断力・表現力の向上も期待することができない。さらに有効な関連を模索し，研究の深化を図っていく必要があることが分かった。

（３）指定期間終了後の取組

今年度の研究の成果と課題を受けて，以下の研究の方向性が明らかになった。

・書く力と読む力のさらに有効な関連をもたせた年間指導計画の作成

・目的に応じて読み，適切に書くためのさらに有効な方策の模索・分析